

通信教育課程 テキスト 科目

ナンバリング	CCg2c312	ディプロマポリシー	DP1c
健康・スポーツ理論		履修次	2
		単位	1
Theory of Health and Sports		卒業要件	必修
		授業区分	教養科目
担当・シラバス執筆教員 ： 奈良陽子	実務経験12年	担当形態：単独	授業形態 講義
			授業方法 テキスト
【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ 体育			
【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ 教養科目			
【実務経験との関連性】※実務家教員のみ			
【授業の概要】			
健康・スポーツとは、大きく分けると運動生理学やスポーツバイオメカニクス、筋パワーなどスポーツ科学的視点、スポーツ外科やリハビリテーションなどのメディカル的視点に分けることができる。本科目ではスポーツ科学やメディカルの側面を学びつつも健康に重点を置き、その中で、からだ、運動・スポーツがそれぞれ健康にどのように関連しているか知る。また、健康生活を営むために運動・スポーツを実施する際の留意点や年齢に応じた内容など総合的に学ぶ。			
【授業の到達目標 及び テーマ】			
<p>① 健康と運動の関連を理解する。</p> <p>② 運動とからだの関連を理解する。</p> <p>③ 健康に関連する社会環境を理解する。</p>			
【成績評価】			
科目修得試験により評価する。			
【教科書】			
安部孝・琉子友男『これからの健康とスポーツの科学』第5版 講談社			
【参考文献】			
なし			
【アクティブラーニング】			
【学習の手引き】における 「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと。			
【事前事後学習】			
【学習の手引き】における 「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと。			
【ICTの活用】			
なし			
【備考】			

授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	ライフスタイルと健康	健康を増進するためのライフスタイルを医療費や環境など社会的側面を含め総合的な視点で学ぶ
2	生活習慣病について	生活習慣病や三大死因などの原因や特徴、基礎的知識の獲得。それらと運動との関連について学ぶ
3	肥満について	肥満の原因となる体脂肪の役割や肥満の測定方法などを学び、改善策として代謝や運動、食事との関連について学ぶ
4	骨と運動	骨の役割と構造を理解し、骨の強化や骨の発達に応じた運動について学ぶ
5	加齢について	サルコペニアが引き起こす身体問題や運動の重要性について学ぶ
6	子どもの体力と運動	現在の子どもを取り巻くスポーツ・運動の環境について学ぶ
7	いろいろな環境下で安全に運動を行う	いろいろな環境下で安全に運動を行う際の留意点を理解し、パフォーマンスとの関連を学ぶ
8	ストレスと運動	運動がストレスをはじめ、心や脳に与える影響、効果や働きかけについて学ぶ。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

授業概要

授業のタイトル(科目名) 子ども家庭支援論		授業の種類 講義	授業担当者 工藤 千華
非常勤講師	弘前厚生学院以外の主な経歴 保育士 実務経験 9年		
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 1年・後期	教養・必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>現代の家族を取り巻く社会環境とそれに生じる諸問題から、保育所の持つ「子育て支援」が重要な社会的役割を持ち、乳幼児、親を含めた家族が、保育士の関わる保育の対象であることを理解する。</p> <p>さらに、「子育て支援」は保育所に通所する子どもの保護者だけでなく、在宅の親やその子どもについても必要とされていることを理解する。</p>			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>保育者の特性を生かした家庭支援の必要性とその社会的背景、支援活動の実践にあたって必要な基本的知識や技術、保育者に求められる基本姿勢や職業倫理について理解を深める。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>子育て支援の歴史・その展開を理解する。子育て支援の基礎的知識の実践への展開を図る。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ①子ども家庭支援の意義と必要性 ②子ども家庭支援の目的と機能 ③子育て支援施策・次世代育成新施策の推進 ④子育て家庭の福祉を図るための社会資源 ⑤保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義 ⑥子どもの育ちの喜びの共有 ⑦保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 ⑧保育士に求められる基本的態度 ⑨家庭の状況に応じた支援 ⑩地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力 ⑪子ども家庭支援の内容と対象 ⑫保育所等を利用する子どもの家庭への支援 ⑬地域の子育て家庭への支援 ⑭要保護児童及びその家庭に対する支援 ⑮子育て支援に関する課題と展望 			
[使用テキスト・参考文献] 子ども家庭支援論（中央法規出版）	[単位認定の方法及び基準] 授業態度・提出物・グループ発表・試験等により総合的に評価する		

授業概要

授業のタイトル(科目名) 保育・教職基礎演習		授業の種類 演習	授業担当者 大場琴恵
大場：学科長	弘前厚生学院以外の主な経歴 大場：保育士 実務経験 30年		
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(2単位)	配当学年・時期	教養・必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 影絵という媒体を通して、子どもに与えることが出来る夢の世界を実践的に学び、皆と協力して実際に演じてみる。 保育とは、保育者の仕事とは、どのようなものか理解する。また、保育の場で求められる保育実践力を養っていく。卒業公演に向けてクラスで協力して作品を仕上げる。			
[授業全体の内容の概要] 影絵の台本から人形製作までグループに分かれて作業する。また、協力して製作し練習を重ねて自信を持って発表する。 保育・教育の全体像を把握し、理解に努めるとともに、実践的かつ積極的な学習活動を通じて保育士や幼稚園教諭への意欲を高め、資質を研く。			
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 皆で一つの作品を作り上げる為に必要な、相手を思いやる気持ちや協力する事の大切さに気づき、練習を重ね人前でも自信を持って堂々と発表し、達成感を味わう。 保育士や幼稚園教諭に求められる資質である使命感、責任感、教育的愛情、社会性、対人関係能力、幼児理解、保育内容の指導力を自覚するとともに実践的指導能力を培う。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. 影絵の説明。題材を決め、やりたい分野に分かれる。 2. 影絵製作①(台本作り・絵人形作り・背景作り・音響) 3. 影絵製作②(台本作り・絵人形作り・背景作り・音響) 4. 影絵製作③(台本作り・絵人形作り・背景作り・音響) 5. 影絵製作④(台本作り・絵人形作り・背景作り・音響) 6. 影絵製作⑤(台本作り・絵人形作り・背景作り・音響) 7. 影絵を演じる①(台本に合わせて動きを確認) 8. 影絵を演じる②(台本に合わせて動きを確認) 9. 影絵を演じる③(音響も含めて皆で台本に合わせて演じる) 10. 影絵を演じる④(音響も含めて皆で台本に合わせて演じる) 11. 卒業公演で披露する事を想定して練習する① 12. 卒業公演で披露する事を想定して練習する② 13. 卒業公演で披露する事を想定して練習する③ 14. 卒業公演で披露する事を想定して練習する④ 15. 卒業公演で披露する事を想定して練習する⑤ 16～30 卒業公演に向けて練習			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] 参加態度・協力性など、全体的に見て評価する。	

授業概要

授業のタイトル(科目名) 子ども家庭支援の心理学		授業の種類 講義	授業担当者 鳴海春輝
学院長	弘前厚生学院以外の主な経歴 知的障害者施設 生活指導員（社会福祉士） 実務経験 16年		
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 2年・前期	教養・必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>生涯発達に関する心理学の基礎的な知識の習得。子どもとその家庭を包括的にとらえる視点の修得。子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題の理解。子どもの精神保健とその課題の理解。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>乳幼児期から老年期までの生涯発達、家族・家庭の意義と機能、家族関係・親子関係の理解、子育てを取り巻く社会的状況、多様な家庭とその理解、特別な配慮を要する家庭、子どものこころの健康</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>家庭との連携のもと保育や子育て支援に関する専門的な知識や技術を習得し、保育現場で生かすことができる</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>01 乳児期の発達 02 幼児期の発達 03 学童期の発達 04 青年期の発達 05 成人期・中年期の発達 06 高齢期の発達 07 家族・家庭の意義と機能 08 家族関係・親子関係の理解 09 子育ての経験と親としての育ち 10 子育てを取り巻く社会的状況 11 ライフコースと仕事・子育て 12 多様な家庭とその理解 13 特別な配慮を要する家庭 14 子どもの生活・生活環境とその影響 15 子どものこころの健康にかかる問題</p>			
[使用テキスト・参考文献] 新基本保育シリーズ9 子どもの家庭支援の心理学 中央法規	[単位認定の方法及び基準] レポート、試験により評価する		

通信教育課程 テキスト 科目

ナンバリング	CCs2c356	ディプロマポリシー	DP2c
教育相談		履修年次	2
		単位	1
Educational Counseling		卒業要件	選択
担当・シラバス執筆教員 : 鳴海 春輝 実務経験10年		授業区分	専門科目
		授業形態	講義
		授業方法	テキスト
【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法 【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ 保育の対象の理解に関する科目 【実務経験との関連性】※実務家教員のみ 公認心理師・臨床心理士の資格を持つ教員が、保育所・幼稚園巡回相談の実務経験から、相談活動の実際について指導する。			
【授業の概要】 教育相談は、子どもが集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。子どもの発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切にとらえ、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身につける。			
【授業の到達目標 及び テーマ】 ① 教育相談の意義と理論を理解する。 ② 教育相談をすすめる際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する。 ③ 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。			
【成績評価】 科目修得試験により評価する。			
【教科書】 杉崎雅子『スギ先生と学ぶ教育相談のきほん』 萌文書林 第2版			
【参考文献】 なし			
【アクティブラーニング】 【学習の手引き】における「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと。			
【事前事後学習】 【学習の手引き】における「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと。			
【ICT の活用】 なし			
【備考】 9回目から15回目までは弘前厚生学院のカリキュラム分として授業を行う。 【教科書】大谷佳子著「傾聴する・受け止める技術便利帳」翔泳社 2023年発行			

授業計画

回	テーマ	学習内容(教科書の章、参考資料など)
1	教育相談とは	教育相談の意義を考察する(第1章)
2	子ども理解	子どもの行動をどう理解するかを学ぶ(第2章)
3	保育者への支援	保護者理解と支援の視点を学ぶ(第3章)
4	カウンセリングマインド	カウンセリングマインドについて理解する(第4章)
5	カウンセリング技法	カウンセリング技法を学ぶ(第5章、第6章)
6	教育相談体制	園内の教育相談体制について理解する(第8章)
7	外部機関との連携	外部機関との連携について理解する(第9章)
8	保育者のメンタルヘルス	保育者のメンタルヘルスについて学ぶ(第10章)
9	基本編 聴く力<傾聴とは>	大谷佳子著「傾聴する・受け止める技術便利帳」翔泳社 2023年発行 傾聴について理解を深める(第1章)
10	基本編 受けとめる力<受容とは>	大谷佳子著「傾聴する・受け止める技術便利帳」翔泳社 2023年発行 受容について理解を深める(第2章)
11	実践編 聴く準備をする	大谷佳子著「傾聴する・受け止める技術便利帳」翔泳社 2023年発行 傾聴する時の環境要因を理解する(第3章)
12	実践編 言葉を受けとめる	大谷佳子著「傾聴する・受け止める技術便利帳」翔泳社 2023年発行 言葉を受けとめる技術を学ぶ(第4章)
13	実践編 感情を受けとめる	大谷佳子著「傾聴する・受け止める技術便利帳」翔泳社 2023年発行 感情を言葉で伝えることを学ぶ(第5章)
14	実践編 積極的に働きかける	大谷佳子著「傾聴する・受け止める技術便利帳」翔泳社 2023年発行 積極的に働きかけるための技術を学ぶ(第6章)
15	まとめ	大谷佳子著「傾聴する・受け止める技術便利帳」翔泳社 2023年発行 全体のまとめを行う

授業概要

授業のタイトル(科目名) 幼児理解の理論と方法		授業の種類 演習	授業担当者 前中 香
非常勤講師	実務経験 15年		
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 2年・前期	教養・必修・選択 必修

[授業の目的・ねらい]

保育実践において、子ども一人ひとりの心身の発達や学びを把握し、子どもの理解に基づく保育者の援助や態度の基本を理解する。

[授業全体の内容の概要]

保育者として子どもと共に生活していく上で、子どもの理解は保育行為の土台となるものである。子どもの発達や学び、それを支援する職員間の連携及び保護者との情報共有のあり方について考察する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

子どもの理解と援助についての知識を身につける。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

1. オリエンテーション(授業内容、目的の確認)、子ども理解と自己理解
2. 子どもに対する共感的理解
3. 人的環境としての保育者と子どもの発達
4. 集団のなかの育ち
5. 保育実践の創造に向けての子ども理解
6. 幼児期にふさわしい生活とは
7. 子ども理解における保育者の姿勢
8. 乳児期(0・1・2歳児)の保育と子ども理解
9. プロジェクト活動と子ども理解
10. 子ども理解と評価
11. 保育を深めるための組織づくり
12. 発達の連續性と就学の支援
13. 子どもの葛藤とつまずきへの対処
14. 特別な配慮が必要な子どもの理解と援助
15. 職員間のた対話と保護者との情報共有

[使用テキスト・参考文献] 授業毎にプリントを配布する。 参考図書：子どもの理解と援助演習ブック	[単位認定の方法及び基準] 授業貢献度、グループワーク、提出物で総合的に評価する。
--	--

通言教育課程 テキスト 科目

ナンバリング	CCs2c341	ディプロマポリシー	DP2c
保育カリキュラム論		履修年次	2
Curriculum in Early Child Care and Education		単位	2
担当シラバス執筆教員 : 棟方ふみ子 実務経験30年	担当形態:単独	卒業要件	選択
授業区分	専門科目	授業形態	講義
授業方法	テキスト		
【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ			
【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ			
保育の対象の理解に関する科目			
【実務経験との関連性】※実務家教員のみ			
【授業の概要】	根拠法令に基づいて、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針等に沿って、教育課程・保育の全体的な計画等の編成や指導計画の作成・立案について学習する。子どもの望ましい育ちを目指して、育てたい姿を描くことや、子どもの実態に即した指導計画の立て方や環境構成に関して学び、実習の指導計画案を作成できるようにしていく。		
【授業の到達目標 及び テーマ】	① 保育における計画の意義を理解し、その編成の基本的な考え方を理解している。 ② 教育課程・保育の全体的な計画（保育課程）および長期の指導計画をもとに子どもの実態に即した短期の指導計画を作成することができる ③ P D C Aによる保育の質の向上の考え方を学び、保育を評価・省察できる		
【成績評価】	科目修得試験により評価する。		
【教科書】	① 宮川萬寿美編著／野津直樹・内山絵美子ほか「保育の計画と評価-豊富な例で1からわかる（第3版）』 萌文書林 ② 内閣府・文部科学省・厚生労働省『平成29年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』 チャイルド社		
【参考文献】	なし		
【アクティブラーニング】			
【学習の手引き】における	「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと		
【事前事後学習】			
【学習の手引き】における	「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと		
【ICTの活用】	自分の行く実習園に関してインターネット等で教育課程を確認しましょう		
【備考】			

授業計画

回	テーマ	学習内容(教科書の章、参考資料など)
1	保育における計画と評価の意義	保育における計画・評価の必要性について理解する 教科書①第1章 教科書②要領・指針総則
2	カリキュラムの基礎理論	カリキュラムと何か、保育におけるカリキュラムの特性を学ぶ 教科書① 第1章
3	教育課程・保育課程の歴史と変遷	幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷を知る 教科書① 第1章
4	社会の変化と保育に求められるもの	「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を学ぶ 教科書① 第1章 教科書②要領・指針総則
5	幼稚園における計画	幼稚園における計画の特徴について知る 教科書①第2章 教科書②幼稚園教育要領・総則
6	保育所・認定こども園における教育・保育の計画	保育所・認定こども園の計画の特徴について知る 教科書①第2章 教科書②保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
7	教育課程の編成の実際	幼稚園の教育課程の編成の要件や実際の事例を検討する。 教科書①第3章 教科書②幼稚園教育要領・総則
8	子ども理解に基づく計画と評価	子どもの実態の捉え方、計画への生かし方を学ぶ 教科書①第1章・4章
9	指導計画におけるねらいと内容	指導計画におけるねらいと内容の意味や考え方について学ぶ 教科書①第4章 教科書②要領・指針総則
10	指導計画の作成と展開(1) —指導計画の基本	長期の指導計画と短期の指導計画の関連について学ぶ 教科書①第5章 教科書②要領・指針総則
11	指導計画の作成と展開(2) —3歳未満児	0・1・2歳児の指導計画について学ぶ 教科書①第5章・6章 教科書②
12	指導計画の作成と展開(3) —3歳以上児	3・4・5歳児の保育と指導計画について学ぶ 教科書①第6章 教科書②
13	指導計画案の作成と展開(4) —その他の計画	行事の計画、食育計画、保健計画、安全計画等について学ぶ 教科書①第5章・6章 教科書②
14	保育の省察および記録	保育の記録の意義、帳票や日誌の内容について知る 教科書①第7章
15	保育の評価と改善—P D C Aサイクルの考え方	保育者の自己評価と園の自己評価、カリキュラム・マネジメントについて知る 教科書①第1章、第8章 教科書②要領・指針総則

通信教育課程 スクーリング（オンデマンド）科目

ナンバリング	CCs2c342	ディプロマポリシー	DP2c
保育内容総論 I		履修年次	2
		単位	1
Guidance of Early Child Care and Education I		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆教員 : 大場琴恵 実務経験30年	担当形態: 単独	授業形態	演習
		授業方法	スクーリング（オンデマンド）

【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ

保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)

【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ

保育の内容・方法に関する科目

【実務経験との関連性】※実務家教員のみ

【授業の概要】

幼児教育の場では、子どもがその環境の中で生活し、その環境とのかかわりの中で、心身ともに成長し発達していくことを援助する。保育内容総論Iでは、保育を総合的にとらえる視点を養い、保育の全体構造の理解に基づいて、子ども理解や保育・教育方法を会得し、具体的に展開していく方法を学ぶ。「生活」「発達」「環境」などをキーワードに、保育者の基本的な考え方やふるまい方について、事例を取り上げながら授業を進めていく。

【授業の到達目標 及び テーマ】

- ① 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいて、保育内容の構造を理解し、保育内容のねらいと内容について知識を習得する。
- ② 子どもの生活に即し、季節の変化等を取り入れた保育計画を立てる方法を身につける。
- ③ 5領域及び総合的な遊びについて説明できる。

【成績評価】

課題の結果（70%）と、観察状況および最終課題の提出（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。

【教科書】

- ① 神戸幸子・宮川萬寿美編著『生活事例からはじめる 保育内容総論 第3版』青踏社
- ② 吉田眞理編著『保育する力』初版 第2刷 ミネルヴァ書房
- ③ 内閣府・文部科学省・厚生労働省「平成29年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本」(チャイルド本社)

【参考文献】

特になし

【アクティブラーニング】

現場での保育実践をイメージし、手づくり教材や指導計画案を作成する。

インターネットなど積極的に活用すること。

【事前事後学習】

事前学習では学習内容にある教科書の章を読んでおくこと。事後学習では動画内で示された資料について確認する事。

【ICTの活用】

- ・オンデマンド型授業による開講のため、別に案内するマニュアルを参照しながら、ICTを活用した積極的な受講に努めること。
- ・保育関連のアプリを活用し、教材（手作りおもちゃ）を考えたり、クラス便りを作成する。

【備考】

授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	保育内容とは	幼児教育の基本・保育内容のねらいと内容・5領域 教科書① 第1章
2	保育内容の変遷	保育内容の歴史 幼稚園教育要領の変遷 教科書① 第2章
3	環境を通して行う保育	遊びの総合的な展開 教科書① 第3章
4	乳児保育と保育内容	乳児、1歳以上3歳未満児の保育内容・養護と教育の一体 教科書① 第5章 教科書② 第2章（第1節、第2節）
5	幼児教育と保育内容	3歳以上児の保育内容 幼児期の終わりまでに育つてほしい10の姿 学びの連続性 教科書① 第5章 教科書② 第2章（第2節） 第4章（第3節）
6	保育の計画と評価	教育課程とそれに基づく長期の指導計画及び短期の指導計画 季節の行事の週案・指導案作成 教科書① 第6・7章 教科書② 第1章（第2節） 第2章（第3節）
7	多様性への対応と保育内容	子どもの発達理解保育内容 教材作成及び教材を使った模擬保育（情報機器の操作及び教材の活用を含む） 保育の多様性・多文化共生の保育について 教科書① 第8章 教科書② 第2章（第5節）
8	保育の記録	保育における記録の意味 保育日誌・クラスだよりの実際 教科書① 第9章 教科書② 第1章（第2節）
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

授業概要

授業のタイトル(科目名) 乳児保育Ⅱ		授業の種類 演習	授業担当者 大川 賴子
非常勤講師	弘前厚生学院以外の主な経歴 保育士 実務経験 40年		
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 2年・通年	教養・必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助やかかわりの基本的な考え方について理解する。			
[授業全体の内容の概要] 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際、乳児保育における配慮の実際を学ぶ。乳児保育における計画の実際について理解を図る。			
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方の理解、子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境についての具体的な理解、乳児保育における配慮の実際についての具体的な理解をする。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] ①オリエンテーション・乳児保育の基本 ②0歳児クラスの保育環境、援助の実際について理解を深める ③1歳児クラスの保育環境、援助の実際について理解を深める ④2歳児クラスの保育環境、援助の実際について理解を深める ⑤子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るために配慮について理解を深める ⑥集団での生活における配慮について理解を深める ⑦環境の変化や意向に対する配慮について理解を深める ⑧子どもの玩具の研究と作成 ⑨ ⑩発表 ⑪おはなし会の実施に向けて準備 ⑫おはなし会の実施に向けて準備、練習 ⑬グループに分かれて発表 ⑭長期的な指導計画と短期的な指導計画 ⑮個別的な指導計画と集団の指導計画			
[使用テキスト・参考文献] 乳児保育Ⅰ・Ⅱ(中央法規出版) 40のサインでわかる乳幼児の発達(黎明書房) 子どもを育てる読み聞かせ実践ガイド(小学館)		[単位認定の方法及び基準] 授業態度・提出物・グループ発表・試験等により総合的に評価する	

授業科目名 子どもの健康と安全	授業の種類 講義・演習	授業担当者 新谷 ますみ	
授業回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 2年後期	必修・選択 必修

[授業の目的・ねらい]

子どもの発育・発達や保健的観点を踏まえながら、子どもを取り巻く環境衛生管理や安全管理、危機管理に目を向けた保育について理解する。救急救命などの子どもの生命の保持のための活動や情緒を安定させる対応、発達段階を踏まえた保健教育の実践力を身につける。

[授業全体の内容の概要]

グループワーク、ロールプレイなどの演習、救急処置の実技などを通して学ぶ。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

- (1)発育・発達や保健的観点を踏まえながら、子どもを取り巻く環境衛生や安全管理、危機管理に目を向けた保育について説明できること。
- (2)救急救命措置や簡単なが・病気の子どもの対応、生命保持のための活動ができること。
- (3)情緒を安定させる対応や発達段階を踏まえた保健教育ができること。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

1. 4月11日(木) 幼稚園・保育所における環境衛生管理と安全管理の基本
2. 4月18日(木) 幼稚園・保育所における環境衛生管理と安全管理の実際
3. 4月25日(木) 幼稚園・保育所における危機管理と災害への備え①
4. 5月 9日(木) 幼稚園・保育所における危機管理と災害への備え②
5. 5月16日(木) 病気の対応と予防教育(感染症の集団発生予防・子どもの清潔習慣と手洗い指導)
6. 10月3日(木) 保育実習の省察会(振り返りと課題の協議)できれば2コマ続きを希望
7. 10月10日(木) 病気の対応と予防教育(熱中症の対応と予防、誤飲・誤嚥の対応と予防)
8. 10月24日(木) 病気の対応と予防教育(歯や口の健康、清潔習慣と保健指導)→移動
9. 10月31日(木) 救急処置の実習(安静・与薬・罨法・経過観察の仕方)
10. 11月7日(木) 救急処置の実習(救急車要請のしかた・保護者・事故対応・緊急体制づくり)
11. 11月14日(木) 現代的な子どもの健康課題とその対応(虐待)
12. 11月21日(木) 現代的な子どもの健康課題とその対応(発達障害・慢性疾患)
13. 11月28日(木) 現代的な子どもの健康課題とその対応(食物アレルギー)
- 14・15 12月5日(木) 子どもの救急救命の実技①および②

[使用テキスト・参考文献]

使用テキスト: 子子どもの保健・健康と安全
参考文献: これならわかる小児保健実習ノート

[単位認定の方法及び基準]

試験: 記述テスト(60分) 50%
救急救命の実技テスト 30% 授業発表と参加度 20%

授業概要

授業のタイトル(科目名) 子育て支援		授業の種類 講義	授業担当者 鳴海春輝
学院長	弘前厚生学院以外の主な経歴 知的障害者施設 生活指導員（社会福祉士） 実務経験 16年		
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 2年・後期	教養・必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>保育所を利用している保護者や地域の保護者等に対して、保育士の専門的知識や技術ならびに保育所の施設・設備等の保育環境を活用して行われている子育て支援について理解を深める</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>保護者との相互理解・信頼関係の形成、保護者の理解、職員間の連携・協働、地域の子育て家庭に対する支援、障害のある子どもや特別な配慮を要する子どもへの支援、子ども虐待の予防と対応、要保護児童等の家庭に対する支援</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>子どもの保育とともにに行う保護者の支援に対する理解が深まり、保護者への相談や指導ができる</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>01 子どもの保育とともにに行う保護者の支援 02 日常的・継続的なかかわりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成 03 保護者や家庭のかかえる支援のニーズへの気づきと多面的な理解 04 子どもおよび保護者の状況・状態の把握 05 支援の計画と環境の構成 06 支援の実践・記録・評価・カンファレンス 07 職員間の連携・協働 08 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働 09 保育所等における支援 10 地域の子育て家庭に対する支援 11 障害のある子どもおよびその家庭に対する支援 12 特別な配慮を要する子どもおよびその家庭に対する支援 13 子ども虐待の予防と対応 14 要保護児童等の家庭に対する支援 15 多様な支援ニーズをかかえる子育て支援家庭の理解</p>			
[使用テキスト・参考文献] 新基本保育シリーズ19 子育て支援 中央法規	[単位認定の方法及び基準] レポート、試験により評価する		

通信教育課程 テキスト 科目

ナンバリング	CCs2c345	ディプロマポリシー	DP3c
表現指導法		履修年次	2
		単位	2
Early Child Care and Education (Representation)		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当シラバス執筆教員 : 大場琴恵 <small>実務経験30年</small>	担当形態: 単独	授業形態	演習
		授業方法	テキスト
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ 保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)</p> <p>【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ 保育の内容・方法に関する科目</p> <p>【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>			
<p>【授業の概要】 幼稚園、保育所および幼保認定連携型認定こども園における乳幼児の「表現」の指導法について考究していく。子どもの表現活動を支える援助者として学生自身が表現力を向上させるとともに、子ども達に表現することの素晴らしさを伝える指導力の育成を目指す。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 幼稚園および保育所等における「表現」の内容について基礎的な知識を得る。 ② 保育者として自ら表現する楽しさを感じ、子どもの発達に応じた表現の指導力が身につく。 ③ 可能な環境設定の中で模擬授業を構築することができる。 			
<p>【成績評価】 科目修得試験により評価する。</p>			
<p>【教科書】 上野奈初美編著『表現指導法-感性を育て、表現の世界を拓く』萌文書林</p>			
<p>【参考文献】 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館</p>			
<p>【アクティブラーニング】</p>			
<p>【学習の手引き】における 「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと。</p>			
<p>【事前事後学習】</p>			
<p>【学習の手引き】における 「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと。</p>			
<p>【ICT の活用】</p>			
<p>なし</p>			
<p>【備考】</p>			

授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	子どもにとっての表現とは	子どもの「表現」に関する基礎的な事項について学ぶ（第1章）
2	領域「表現」とは	領域「表現」のねらい及び内容について学ぶ（第2章）
3	リズムを楽しむ子どもの身体表現	子どもの身体表現とリズムとの密接な関わり合いを学ぶ（第3章）
4	スポーツの名場面を表現に	スポーツの特性を知り身体表現との相違点や類似点を学ぶ（第4章）
5	音楽表現活動の指導①	音を聴き、声を使った表現遊びの実践方法や保育者の関わり方を学ぶ（第5章）
6	音楽表現活動の指導②	楽器や様々な素材の音を使った表現遊びの実践方法や保育者の関わり方を学ぶ（第6章）
7	幼児の造形表現の特質	子どもの造形について発達の観点から知り、造形の遊びへと展開できる技術を身につける（第7章）
8	造形の材料化技法	造形表現の材料や技法について学ぶ（第8章）
9	言葉による表現①	子どもにとっての言語表現とは何かについて理解する（第9章）
10	言葉による表現②	言葉を媒介とした表現遊びについて理解する（第10章）
11	自然と生活	春の保育活動の特色について理解する（第11章）
12	夏のイメージから表現へ	夏のイメージから多様な表現が生まれることを学ぶ（第12章）
13	総合的音楽表現活動の指導	行事を通して子どもの自主性や表現力、協働する力を育むための保育者の関わり方や計画の実践方法を学ぶ（第13章）
14	総合活動計画の立案	季節を題材にした部分実習指導案を立案する（第14章）
15	領域「表現」の目指すもの	現代社会の中で子どもの豊かな表現を育むための課題について考える（第15章）

授業概要

授業のタイトル(科目名) 幼児教材研究		授業の種類 演習	授業担当者 大場琴恵・齋藤涼子
大場：学科長 齋藤：常勤講師	弘前厚生学院以外の主な経歴 大場：保育士 実務経験 30年 齋藤：保育士 実務経験 8年		
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期	教養・必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>子どもとの遊びの面白さを共有するための教材を研究し、子どもの遊びを誘導し、生活や活動の中で子どもへの伝え方を研究し子どもにわかるように伝える具体的方法や技術を身に付ける。</p>			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>子どもの内面を理解し、子どもから活動を引き出し意味のある活動になるよう具体化する方法を考え、遊びの楽しさや試行錯誤したくなる気持ちなど、保育経験の少ない学生が子どもの内面を理解する上で教材の重要性を学び、子どもが様々なことを試したり工夫したりしながら遊びに楽しさを味わえるような教材を作成し、互いに発表する。</p>			
<p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>保育者の教育的意図を子どもに働きかけるために、媒体となる教材の使い方を具体的に構想する中で、教材の持つ意義・楽しさなどを十分に理解（面白さ等理解）し、その教材で遊ぶ子どもの内面を考えることにより、子どもの見方や関わり方をより明確にする。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児教材（児童文化財）とは何かまた必要性について <ul style="list-style-type: none"> ・幼児教材の研究・幼児教材の作成企画 2. 幼児教材の作成①（パネルシアター） 3. 幼児教材の作成②（パネルシアター） 4. 幼児教材の作成③（パネルシアター） 5. 幼児教材の実践①・反省と課題 6. 表現力について考える 7. おはなし会のプログラム作成・製作① 8. おはなし会のプログラム作成・製作② 9. おはなし会のプログラム作成・製作③ 10. おはなし会のプログラム作成・製作④ 11. おはなし会のプログラム練習① 12. おはなし会のプログラム練習② 13. 幼児教材の実践① 14. 幼児教材の実践② 15. 幼児教材の実践の反省と課題 			
[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]		

通信教育課程 テキスト 科目

ナンバリング	CCs2c344	ディプロマポリシー	DP3c
健康指導法		履修年次	2
		単位	2
Early Child Care and Education (Health)		卒業要件	選択
担当・シラバス執筆教員 : 直山昌子 実務経験11年		授業区分	専門科目
		授業形態	演習
		授業方法	テキスト
【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ 保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む) 【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ 保育の内容・方法に関する科目 【実務経験との関連性】※実務家教員のみ			
【授業の概要】 幼稚園、保育園、認定こども園で実践する教育、保育の「健康」の位置づけを理解し、子どもの発達に応じた支援、援助、環境設定や安全教育、それらに付随する専門知識や学校教育の流れを学ぶ。			
【授業の到達目標 及び テーマ】 ① 幼稚園、保育園、認定こども園で実践する教育、保育の「健康」の位置づけを理解する。 ② 子どもの発達に即した支援、援助、環境設定を理解する。 ③ 指導方法や教材づくり、評価法や小学校教育とのつながりを理解する。			
【成績評価】 科目修得試験により評価する。			
【教科書】 井筒紫乃・安倍大輔・川田裕次郎『新版 保育者をめざす保育内容「健康」』圭文社			
【参考文献】 文部科学省『幼稚園教育要領解説』、厚生労働省『保育所保育指針解説』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館			
【アクティブラーニング】			
【学習の手引き】における 「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと。			
【事前事後学習】			
【学習の手引き】における 「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと。 「健康教育」もしくは「運動遊び」をテーマとした指導案を作成すること。			
【ICT の活用】 なし			
【備考】			

授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	保育内容「健康」で学ぶこと	法令や各指針・要領における「健康」について 教科書第1章
2	からだの発達①	からだの発育と発達について 教科書第2章
3	からだの発達②	運動発達について 教科書第2章
4	からだの発達③	運動発達を促進する運動指導について 教科書第2章
5	こころの発達	発達段階について 教科書第3章
6	子どもにとって遊びとは	子どもの遊びの重要性について 教科書第4章
7	様々な遊び①	様々な遊びの実践や注意点について 教科書第5.6章
8	様々な遊び②	季節の遊びについて 教科書第5.6章
9	基本的生活習慣の形成①	基本的生活習慣とは 教科書第8.9章
10	基本的生活習慣の形成②	基本的生活習慣と保育者のかかわりについて 教科書第8.9章
11	子どもを取り巻く現状①	現代社会と子どもについて 教科書第10.11章
12	子どもを取り巻く現状②	子どもとメディアについて 教科書第10.11章
13	食育と健康	食育の基本について 教科書第12章
14	子どもの安全管理と安全教育	現場での安全管理や子どもと実践する安全教育について 教科書第13章
15	子どものけがや病気	乳児や幼児に気をつけたいけがや病気について 教科書第14章

通信教育課程 テキスト 科目

ナンバリング	CCs2c347	ディプロマポリシー	DP3c
人間関係指導法		履修年次	2
Human Relations		単位	2
担当シラバス執筆教員 : 大場琴恵 実務経験馬上30年	担当形態:単独	卒業要件	選択
授業区分	専門科目	授業形態	演習
授業方法	テキスト		
【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ 保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む) 【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ 保育の内容・方法に関する科目 【実務経験との関連性】※実務家教員のみ			
【授業の概要】 本科目では、領域「人間関係」のねらい及び内容について専門領域と関連させて理解を深め、具体的保育を構成する力を養う。「幼児の人と関わる力の育ち」を理論的・実践的に理解し、保育者の「育てる側の人間」としての資質の向上を目指す。			
【授業の到達目標 及び テーマ】 ① 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。 ② 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。			
【成績評価】 科目修得試験により評価する。			
【教科書】 大浦賢治・山本陽子編『実践につながる新しい保育内容「人間関係」』ミネルヴァ書房			
【参考文献】 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館			
【アクティブラーニング】			
【学習の手引き】 における 「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと。			
【事前事後学習】			
【学習の手引き】 における 「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと。			
【ICTの活用】			
なし			
【備考】			

授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	保育環境としての保育者のあるべき姿①	第9章 ・第1節 保育者としての理想像とは ・第2節 子ども理解のための自己理解
2	保育環境としての保育者のあるべき姿②	第9章 ・第3節 保育環境としての人間関係
3	事例からみる 0歳における人との関わり ①	第10章 ・第1節 0歳児の心身の育ちと人間関係
4	事例からみる 0歳における人との関わり ②	第10章 ・第2節 あそびと生活における保育者との関わり
5	事例からみる 1~2歳における人との 関わり①	第11章 ・第1節 1~2歳児の心身の育ちと人間関係
6	事例からみる 1~2歳における人との 関わり②	第11章 ・第2節 あそびと生活における保育者との関わり
7	事例からみる 3~5歳における人との 関わり①	第12章 ・第1節 0歳児の心身の育ちと人間関係
8	事例からみる 3~5歳における人との 関わり②	第12章 ・第2節 あそびと生活における保育者との関わり
9	事例からみる 3~5歳における人との 関わり③	第12章 ・第3節 小学校への接続と幼稚園・小学校指導要録
10	事例からみる特別な支援を必要とする 子どもとの関わり	第13章 ・第1節 障害のある子ども・気になる子どもと保育者の援助 ・第2節 インクルーシブな保育の実際
11	人間関係を育む指導計画・評価①	第14章 ・第1節 保育を豊かにする教材研究の方法 ・第2節 人間関係を育む指導計画のアイデア
12	人間関係を育む指導計画・評価②	第14章 ・第3節 模擬保育の実施による相互評価と自己評価
13	保育における現代的課題①	第15章 ・第1節 幼児期におけるICTの活用
14	保育における現代的課題②	第15章 ・第2節 多文化共生保育の実現に向けて
15	新しい時代の保育とは	終章 ・第1節 持続可能な社会を目指す教育 ・第2節 自己肯定感を育む保育 ・第3節 人間関係の重要性について

授業概要

授業のタイトル(科目名) 音楽III		授業の種類 演習	授業担当者 鳴海 美幸
非常勤講師	弘前厚生学院以外の主な経歴 中・高等学校の音楽講師や小学校の学習支援員として25年間勤務 青森県ピアノ音楽研究会会員		(実務経験)
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 2年・前期	教養・必修・選択 選択

[授業の目的・ねらい]

幼稚の豊かな感性や創造性を養うために、音楽I及び音楽IIで身につけた基礎的な音楽知識や技術をより深め、保育現場で求められる音楽表現について指導します。

[授業全体の内容の概要]

①「音楽III」では、1年生の授業（器楽入門と音楽II）で習得したピアノや弾き歌いの演奏や技術をさらに向上させて、保育現場で役立つような応用力を養います。

②授業では、個人レッスンを中心にそれぞれの進度に応じた指導を行います。グループレッスンでは、保育実習に備えてあいさつの歌や季節感のある子どもの歌の弾き歌いを中心に行い、子どもの前で楽しく弾き歌いができるようにします。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

①基礎的なピアノのテクニックをさらに向上させることによって、保育現場で必要とされるピアノ演奏技能を習得し、実践できる。

②初見視奏やコード奏法、楽曲のアレンジなどの応用力を高め、豊かな表現力をもってピアノを演奏できる。

③挨拶の歌、季節の歌や行事の歌など様々な場面で用いられる子どもの歌の弾き歌いを数多く行い、保育現場での実践につなげることができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

1. オリエンテーション、基礎の復習
2. 課題の歌をリズムに注意して弾き歌いできる。「小鳥の歌、おべんとう」
3. 課題の歌をテンポ、強弱、曲想に気をつけて弾き歌いができる。「おかあさん、あめふりくまのこ」
4. 夏の歌を季節感を持って表現できる。「たなばたさま、うみ、バスごっこ」
5. 夏の歌を歌詞の意味を考えて表現できる。「こおろぎ、ホ!ホ!ホ!、さんば」
6. コード奏法により伴奏をつけることができる。「大きな栗の木の下で、アイスクリームのうた」
7. 歌の中の調性の変化を感じて弾き歌いできる。「とんぼのめがね、どんぐりころころ」
8. わらべうたに触れる。「げんこつ山のたぬきさん、ほたるこい、いっぱいしこちよこちよ」
9. 前期試験曲の選曲に積極的に関わることができる。

A) 子どもの歌（弾き歌い）1曲とピアノ曲のレッスン1 第10回:子どもの歌(弾き歌い)とピアノ曲のレッスン2 第11回:子どもの歌(弾き歌い)のレパートリーをひろげる。

教科書「子どものうた200」の中から選択すること。なお、次の番号の楽曲は除く No.1～32、34～40、42、43、48～50、52、60、61、63、66、153～155、157)

第12回:子どもの歌(弾き歌い)とピアノ曲のレッスン3 第13回:子どもの歌(弾き歌い)とピアノ曲のレッスン4 第14回:試験曲の決定と試験曲のレッスン

第15回:試験と今後の学習に向けたアドバイス

(B)各自が選択したピアノ曲を1曲 ※「音楽II」で選択したテスト曲は除く

試験曲・子どもの歌(弾き歌い) 1曲・

ピア)曲1曲(バイエルの場合は2曲)

ただし、クラシックジャンルのピアノ曲とし、全演奏時間は5分以内で完結する曲とする。また次の楽曲を除く・バイエル教則本の終了レベルより難易度が低い曲・簡易楽譜によるもの 試験曲・子どもの歌(弾き歌い)1曲・ピアノ曲1曲(バイエルの場合は2曲)

10. 前期試験曲の指導1回目。指使い、拍子、テンポ等の確認

11. 前期試験曲の指導2回目。ゆっくり両手で弾けるようにし、難しい個所を確認する。

12. 前期試験曲の指導3回目。歌いながら全体を通して弾く。

13. 前期試験曲のリハーサル。試験本番に向けた練習の仕方について リハーサルで見えた課題を克服し、試験に向けて練習する。

14. 前期試験曲のリハーサル。試験本番に向けた練習の仕方について リハーサルで見えた課題を克服し、試験に向けて練習する。

15. 前期試験発表。

[使用テキスト・参考文献]

バイエル

子どもの歌

[単位認定の方法及び基準]

弾き歌い試験

授業概要

授業のタイトル(科目名) 音楽IV		授業の種類 演習	授業担当者 鳴海 美幸
非常勤講師	弘前厚生学院以外の主な経歴 中・高等学校の音楽講師や小学校の学習支援員として25年間勤務 (実務経験) 青森県ピアノ音楽研究会会員		
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 2年・後期	教養・必修・選択 選択

[授業の目的・ねらい]

より高度な歌唱技法の習得のため、『音楽III』で学んだ歌唱の知識や技術のさらなる向上を目的とし、これまで習得した幼稚園、保育園の教育に必要な音楽の知識と技能を更に確かにしていく。主に「子どものうた」の弾き語りを練習しレパートリーを増やす。

[授業全体の内容の概要]

声楽は発声法を学習、読譜力、音程、リズムの理解と実践を行い、童謡や日本歌曲、外国曲で歌唱法を学ぶ。

[授業終了時の達成課題]

①弾き歌い

「子どものうた200」から『音楽III』で選択した試験曲及び以下を除いた2曲を弾き歌いする。

②ピアノ演奏

以下に留意して1曲(バイエルは2曲)を選び、暗譜で演奏する。

- ・「音楽II」「音楽III」で選択した試験曲は除く
- ・クラシックジャンルのピアノ曲にて5分以内で完結する曲
- ・「バイエル」の課題より難易度が低い曲、ツェルニー練習曲は除く
- ・初心者はバイエルのNo.81.93.94.96.98.102から2曲を選択のこと。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 1. 発声法、階名唱、発音の理解 | 8. 子どもの歌の伴奏付 |
| 2. 音程重視の歌唱練習 | 9. 歌詞の理解と表情のある歌唱 |
| 3. リズム重視の歌唱練習 | 10. ピアノ曲及び弾き歌いのレッスン |
| 4. 子守歌の歌唱練習 | 11. ピアノ曲及び弾き歌いのレッスン |
| 5. わらべ歌の歌唱練習 | 12. ピアノ曲及び弾き歌いのレッスン |
| 6. 歌曲の歌唱練習 | 13. ピアノ曲及び弾き歌いのレッスン |
| 7. 和音記号、和音進行、コードネームの理解 | 14. ピアノ曲及び弾き歌いのレッスン |
| | 15. 試験と今後に向けたアドバイス |

[使用テキスト・参考文献]

「子どもの歌」 (株)チャイルド本社
歌唱教材はプリント配布

[単位認定の方法及び基準]

実技試験(ピアノ、弾き歌い、歌唱)
ペーパーテスト

授業概要

授業のタイトル(科目名) 保育実習指導ⅡまたはⅢ		授業の種類 演習	授業担当者 大場琴恵・清藤美紀子
大場：こども学科長 清藤：専任教員	弘前厚生学院以外での主な経歴 大場：保育士 実務経験 30年 清藤：栄養士 実務経験 11年		
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 2年・通年	教養・必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 保育実習の意義・目的を理解する。			
[授業全体の内容の概要] 実習の内容を理解し、自らの目標を明確にする。			
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 保育実習に必要な知識や技術を修得する。また、保育実習Ⅰを踏まえ、課題や学習目標を明確にする。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. 実習の内容と課題の明確化 2. 実習に際しての留意事項 3. 実習に向けての作品作り 4. ノ 5. プライバシーの保護と守秘義務 6. 実習における観察、記録 7. ノ 8. 指導案作成の実際 9. ノ 10. ノ 11. 事後指導における実習の総括と課題の明確化 12. 実習の総括と自己評価 13. 課題の明確化 14. ノ 15. まとめ			
[使用テキスト・参考文献] ・「最新保育講座 保育実習」ミネルヴァ書房 ・「保育所保育指針解説書」フレーベル館		[単位認定の方法及び基準] 授業態度・提出物・課題への取り組みで総合的に判断する。	

通信教育課程 スクーリング（対面）科目			
ナンバリング	CCs2c357	ディプロマポリシー	DP2c
保育・教職実践演習		履修年次	2
Practical Training of Nursery-School Teaching		単位	2
担当・シラバス執筆教員：大場琴恵（実務経験30年）	担当形態：単独	卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
		授業形態	演習
		授業方法	スクーリング（対面）
【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ			
教職実践演習			
【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ			
総合演習			
【実務経験との関連性】※実務家教員のみ			
【授業の概要】			
<ul style="list-style-type: none"> ・教育職・保育職の専門性について理解を深める。 ・履修カルテを用いて、学びの自己評価をし、学習内容の共通性や独自性を考え、保育内容の全体的な構造と科目横断的な理解を深める。 ・保育における具体的な事例の検討および幼児教育施設の実情にふれ、幼児理解に基づき保育を構想し教材研究等、を通じて保育の実践力の育成をする。 ・模擬保育を通して、子ども理解に基づいた指導案作成や保育の振り返りなどを行い、再構成していく力を養う。 ・教育現場の専門家や保護者のおかれられた実情・実態に触れ、求められる支援に関して理解する 			
【授業の到達目標 及び テーマ】			
<ul style="list-style-type: none"> ・対面30回の授業構成である。（スクーリング15回・演習15回） 			
① 幼稚園教諭、保育士としての専門性について理解する。 ② 保育者として求められる使命感、責任感、社会性、対人関係能力、学級経営についての自己評価し、今後の自己課題を設定する。 ③ 指導案作成、教材研究を含めた模擬保育を行う中で、保育内容についての実践的な指導力を育む。 ④ 卒業公演に向けて、人前で発表する力を養う。			
【成績評価】			
授業で実施する課題などの結果（50%）および授業態度と演習への参加の積極性（50%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。			
【教科書】			
① 野津直樹・宮川萬寿美編著『保育・教職実践演習：実践力のある保育者を目指して』萌文書林 ② 吉田眞理著『保育する力』初版 ミネルヴァ書房 学習内容に即して、①②のどちらかを用いたり、併用するなど、各授業で工夫する事			
【参考文献】			
文部科学省・厚生労働省・内閣府『平成29年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド本社			
【アクティブラーニング】			
開講時期及び受講学生の学習進度に合わせて、グループワーク、プレゼンテーション、模擬保育などを取り入れる。			
【事前事後学習】			
3日間での集中授業であるため、受講学生の学習進度に合わせて、課題を課すので、主体的に取り組むこと。			
【卒業公演】			
公演に向けての、レイアウトや構成を考えて取り組む。			
【備考】			

授業計画

回	テーマ	学習内容(教科書の章、参考資料など)
1	授業の目的・授業計画	保育教職実践演習の目的と演習についての説明
2	保育者とは(1)	教科書①第1章1節 自己評価 2節 履修カルテ 教科書②第1章1節 協働して保育を編む
3	保育者とは(2)	教科書①第1章3節 保育者として求められる資質と能力 4節 保育者のあり様 5節 保育者としての社会性、対人関係能力
4	これから育てたい子どもの姿	教科書①第2章1節 保育の実際、保育の質 2節 育てたい子どもの姿 教科書②第1章3節 職業として保育を紡ぐ 第4章2節 ティーチャーズトレーニングの実際
5	保育の計画	教科書①第2章3節 保育の基本と計画・評価 4節 ラーニングストーリー 教科書②第1章1節 保育の全体的な計画 2節 保育の記録
6	保育の記録の方法	教科書①第2章5節 子どもと遊び、保育マップの活用 6節 保育をデザインする・共有する 第4章4節 ドキュメンテーションの実際
7	子育て支援	教科書①第3章 家庭と子育て支援 教科書②第2章5節 個別生への配慮 6節 保護者への対応 第3章2節 地域の子育てを支える
8	保育の現代的課題	教科書①第4章1節 チーム保育 2節 保育を語る、対話することの重要性 3節 ICT化 教科書②第1章2節 チーム保育 第4章1節チーム保育の実際
9	保育の教材研究	保育教材とは何かを考え、教材を作成する 教科書②第2章1節 子どもの発達に応じた玩具
10	模擬保育① 指導案の作成	教科書①第2章3節 保育の計画と評価 第5章1節 模擬保育に主体的に取り組む 教科書②第2章2節 月齢ごとの保育 3節 季節の行事
11	模擬保育② 模擬保育実施	教科書①第5章2節 模擬保育インユアーム
12	模擬保育③ 模擬保育の実施と確認	教科書①第5章3節 指導+画面の打ち合わせの先行体験
13	模擬保育④ 模擬保育の省察	教科書①第2章3節(4) 保育の改善と評価 第3章5節 子どもと遊び、保育マップの活用 6節 保育をデザインする・共有する
14	目指す保育者像	保育現場の実情について現職者の話を聞く(レポート作成)
15	目指す保育者像	教科書①第6章 これからの保育者(履修カルテで学習振り返り) 教科書②第4章3節 橋を渡すプログラム
16	卒業公演について	卒業公演を行う意図をしり、テーマを考える。
17	ハロウィン製作①	ハロウィンの意味を知り製作する。
18	ハロウィン製作②	製作した物を発表し、飾る。
19	クリスマス製作①	クリスマスの意味を知り製作をする。
20	クリスマス製作②	製作したものを見出し、飾る。
21	卒業公演①	卒業公演に向けて劇・オペレッタの練習
22	卒業公演②	卒業公演に向けて劇・オペレッタの練習
23	卒業公演③	卒業公演に向けて劇・オペレッタの練習
24	卒業公演④	卒業公演に向けて劇・オペレッタの練習
25	卒業公演⑤	卒業公演に向けて劇・オペレッタの練習

26	卒業公演⑥	卒業公演に向けて劇・オペレッタの練習
27	卒業公演⑦	卒業公演に向けて劇・オペレッタの練習
28	卒業公演⑧	卒業公演に向けて劇・オペレッタの練習
29	卒業公演⑨	卒業公演に向けて劇・オペレッタの練習
30	卒業公演⑩	卒業公演に向けて劇・オペレッタの練習

通信教育課程 スクーリング（対面）科目

ナンバリング	CCs2c267	ディプロマポリシー	DP3c
教育実習指導		履修年次	2
		単位	1
Kindergarten Practice Teaching		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆教員 ： 大場琴恵 (実務経験30年)	担当形態：単独	授業形態	演習
		授業方法	スクーリング（対面）
【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ			
教育実習			
【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ			
【実務経験との関連性】※実務家教員のみ			
【授業の概要】			
幼稚園免許2種免許状を取得するために必要な教育実習の意義・目的・内容の理解を深め、実習の準備と実習体験を深化させるための学習を行う。 事前学習では、幼稚園の役割や機能、保育者の役割に関する理解を意識化とともに、自己の課題を明確化する。 事後学習では、実習体験を振り返り、自己の実習課題の達成と成果について省察し、更なる学習への意欲を喚起し実践力の獲得につなげる。			
【授業の到達目標 及び テーマ】			
<p>① 実習の事前学習を通して、実習を円滑に進めていくための態度及び知識、技能を修得し、実習内容を理解し、自らの課題を明確にする。</p> <p>② 実習事後の振り返りとまとめの授業を通じて、実習体験を深化させる。</p> <p>③ 幼稚園教育職への意欲、適性を体験から考察し、進路決定をしていく。</p>			
【成績評価】			
授業で実施する課題などの結果（50%）および授業態度と参加の積極性など（50%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。			
【教科書】			
<p>① 吉田眞理編著『生活事例からはじめる 教育実習・保育実習』青踏社</p> <p>② 文部科学省・厚生労働省・内閣府『平成29年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド本社</p> <p>③ 宮川萬寿美編著『教育・保育実習に役立つ 部分実習指導集』萌文書林</p> <p>④ 実習の手引き（小田原短期大学保育学科通信教育課程）</p> <p>⑤ 教育実習日誌（小田原短期大学保育学科通信教育課程）</p>			
【参考文献】			
文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館			
森上史朗・柏女靈峰『保育用語辞典』ミネルヴァ書房			
【アクティブラーニング】			
【事前事後学習】			
【ICTの活用】			
【備考】			

授業計画

回	テーマ	学習内容(教科書の章、参考資料など)
1	実習の目的と概要 実習生としての心構え	教育実習の目的と概要について (教科書① 16~18 ページ、教科書④ 1~4 ページ) 実習生の服装、基本的な実習マナー、基本的生活習慣について (教科書① 25~33 ページ、教科書④ 13~16 ページ)
2	オリエンテーション指導	実習園でのオリエンテーションを依頼する電話のかけ方、オリエンテーションの実際 (教科書① 35~42 ページ、教科書④ 21 ページ、33~39 ページ) 実習生紹介書の作成 (教科書④ 5~6 ページ) 健康管理と体調チェック、実習に際しての留意事項の確認(教科書④ 20 ページ)
3	幼稚園・保育者の理解	幼稚園の生活、幼稚園教育の基本、幼稚園教諭の役割について (教科書② 14~16 ページ、109~114 ページ、教科書④ 幼稚園編 41~43 ページ)
4	実習日誌の書き方	実習日誌の書き方、保育時間と保育を支えるための時間について (教科書① 135~139 ページ、教科書④ 49~54 ページ) エピソード記録の書き方について (教科書① 139~145 ページ、教科書④ 55~62 ページ)
5	指導計画案の書き方	部分実習・責任実習指導計画案の説明、指導計画案のトライアングル、どてまの法則について (教科書① 147~154 ページ、教科書④ 63~72 ページ)
6	指導計画案の立案と実践	部分実習・責任実習指導計画案の立案と、発表
7	教育実習課題設定	教育実習課題を設定、日誌へ反映させる (教科書④ 幼稚園篇 73 ページ)
8	実習体験報告会、 実習振り返り	実習体験報告会による実習の振り返り 幼稚園について、子どもについて、幼稚園教師の役割について話し合う(教科書④ 81 ページ)
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		